

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4354228号
(P4354228)

(45) 発行日 平成21年10月28日(2009.10.28)

(24) 登録日 平成21年8月7日(2009.8.7)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 41/34 (2006.01)

B 6 5 D 41/34 B R L

B 6 5 D 47/08 (2006.01)

B 6 5 D 47/08 F

B 6 5 D 47/12 (2006.01)

B 6 5 D 47/12

請求項の数 2 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2003-281017 (P2003-281017)
 (22) 出願日 平成15年7月28日(2003.7.28)
 (65) 公開番号 特開2005-47543 (P2005-47543A)
 (43) 公開日 平成17年2月24日(2005.2.24)
 審査請求日 平成18年7月7日(2006.7.7)

(73) 特許権者 000006909
 株式会社吉野工業所
 東京都江東区大島3丁目2番6号
 (74) 代理人 100105326
 弁理士 吉村 眞治
 (72) 発明者 山中 伸夫
 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
 社吉野工業所内
 審査官 楠永 吉孝

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液体注出容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器と液体注出キャップとからなる液体注出容器であって、
 容器は、ねじを刻設した壇口と、周方向にラチェット歯を設けた容器肩部を具えており、

液体注出キャップは、壇口に螺合する内筒と、外筒と、頂壁と、注出ノズルを設けた上壁、注出ノズルを覆い上壁端部にヒンジ結合されているノズルカバーとからなり、

液体注出キャップの外筒下端には、連結片を残して穿設された鉤形の切欠によって区画され、内面に容器のラチェット歯に噛合するラチェットを設けた摘み部を設けたことを特徴とする液体注出容器。

【請求項 2】

液体注出キャップのヒンジ部分に対向する側の外筒上端に段部を設け、該段部に、ノズルカバーの前端を覆い、切離可能な連結部により保持されている封緘カバーを設けたことを特徴とする請求項 1 記載の液体注出容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、洗髪料、化粧料、ドレッシングその他の調味料等を注出する液体注出容器に関するものである。

【背景技術】

【 0 0 0 2 】

洗髪料、化粧品、ドレッシングその他の調味料等の液体注出容器として、キャップの位置合わせや戻り防止を設けた液体注出容器は、従来より知られている。

その一つに特許文献 1 に示されるような位置合わせを設けた注出容器が提案されている。

【特許文献 1】特開平 1 1 - 5 9 7 1 7 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 3 】

上記特許文献 1 記載のもの、その他従来の液体注出キャップ等においては、位置合わせおよび戻り防止のために、キャップと容器の一部にラチェット機構を設けているが、分別廃棄の時にキャップを取外すことができず、分別回収、リサイクルが困難となる欠点があった。

10

【 0 0 0 4 】

本発明は、上記問題を解決することを課題として、液体注出キャップの一部に、連結片を切離可能にしたラチェットを具えた摘み部を設けることにより、分別廃棄が可能となるようにした液体注出容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記の課題を解決するため、液体注出容器として、容器と液体注出キャップとからなる液体注出容器であって、容器は、ねじを刻設した壘口と、周方向にラチェット歯を設けた容器肩部を具えており、液体注出キャップは、壘口に螺合する内筒と、外筒と、頂壁と、注出ノズルを設けた上壁、注出ノズルを覆い上壁端部にヒンジ結合されているノズルカバーとからなり、液体注出キャップの外筒下端には、連結片を残して穿設された鉤形の切欠によって区画され、内面に容器のラチェット歯に噛合するラチェットを設けた摘み部を設けたことを特徴とする構成を採用する。

20

【 0 0 0 6 】

ノズルカバーの封緘カバーとして、液体注出キャップのヒンジ部分に対向する側の外筒上端に段部を設け、該段部に、ノズルカバーの前端を覆い、切離可能な連結部により保持されている封緘カバーを設けたことを特徴とする構成を採用する。

30

【発明の効果】

【 0 0 0 7 】

本発明の液体注出容器は、液体注出キャップと容器を別々に分別廃棄する時に、摘み部を引っ張り、連結片を破断するだけの簡単な操作で、容易に分別できる利点がある。

また、摘み部が連結片によって注出キャップに連結され、なおかつノズルカバーにも封緘カバーが設けられているので、商品のバージン性が高まり消費者に安心感をもたらす利点がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 0 8 】

液体注出キャップの切断可能な連結片を設けた摘み部と、容器肩部に設けたラチェット機構の簡単な構造により分別廃棄を実現した。

40

【実施例 1】

【 0 0 0 9 】

図 1 ~ 3 に示すように、本発明の液体注出容器は、容器 1 と液体注出キャップ 2 とから構成されている。

【 0 0 1 0 】

容器 1 は、ねじ 3 を刻設した壘口 4 と、周方向にラチェット歯 5 を設けた容器肩部 6、胴部と底部とから構成されている。

【 0 0 1 1 】

液体注出キャップ 2 は、壘口 4 に螺合する内筒 7 と、外筒 8 と、頂壁 9 と、注出ノズル

50

１０を立設した上壁１１と、外筒上端の上壁端１２にヒンジ１３により結合された注出ノズル１０を覆うノズルカバー１４とから構成されている。

【００１２】

液体注出キャップ２の外筒下端１５には、連結片１６を残して鉤形の切欠１７が穿設され、摘み部１８が形成されている。

該摘み部１８は、外筒下部とは接続部１９を介して連設されており、摘み部１８の裏面には、容器１のラチェット歯５に噛合うラチェット２０が突設されている。

【００１３】

上記実施例では、摘み部１８上縁を連結片１６により外筒と連結しているが、摘み部１８上縁を薄肉の弱化ラインとして切断可能な連結部とし、切欠１７を縦溝状としてもよい。

10

【００１４】

液体注出キャップ２の外筒上端には、ヒンジ１３に対向する側に段部２１が設けられ、使用時に切離可能な連結部２２ａ、２２ｂにより保持されている封緘カバー２３が設けられている。

【００１５】

液体注出キャップ２のヒンジ１３は、公知のヒンジ構造であれば、どのようなものでもよいが、とくに、三点ヒンジと呼ばれている弾発力のある構造のものがより望ましい。

【００１６】

容器１に内容液を充填し、液体注出キャップ２を螺合すれば、容器１のラチェット歯５と液体注出キャップ２のラチェット２０を噛合わせることで、任意の個所に位置合わせと戻り防止が可能となった。

20

【００１７】

さらにまた、液体注出容器の使用後の分別廃棄は、液体注出キャップ２の摘み部１８を持って引っ張り、連結片１６を破断して外方に廻動させることにより、ラチェット２０がラチェット歯５から外れ、容器１から液体注出キャップ２を取外し可能となった。

【００１８】

また、液体注出キャップ２のノズルカバー１４の前面に封緘カバー２３が設けられているので、内容物のバージン性も保証されるようになった。

【産業上の利用可能性】

30

【００１９】

容器と液体注出キャップの一部にラチェット機構を設けたことにより、位置合わせと戻り防止が可能で、しかも液体注出キャップのラチェットを有する摘み部に、切断可能な連結部を設けたことにより分別廃棄が可能となり、分別回収、リサイクルに適用できる。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】液体注出容器の液体注出キャップと容器の分解斜視図である。

【図２】液体注出容器の一部縦断立面図である。

【図３】ラチェット機構を説明する横断面図である。

【符号の説明】

40

【００２１】

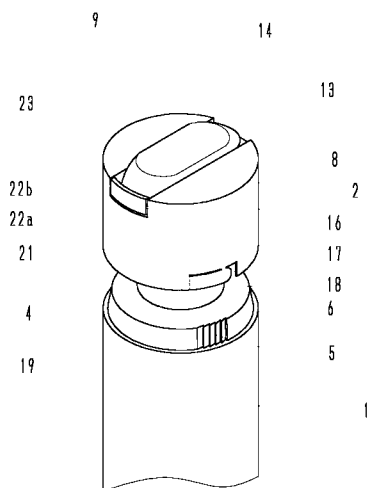
- １ 容器
- ２ 液体注出キャップ
- ３ ねじ
- ４ 壺口
- ５ ラチェット歯
- ６ 容器肩部
- ７ 内筒
- ８ 外筒
- ９ 頂壁

50

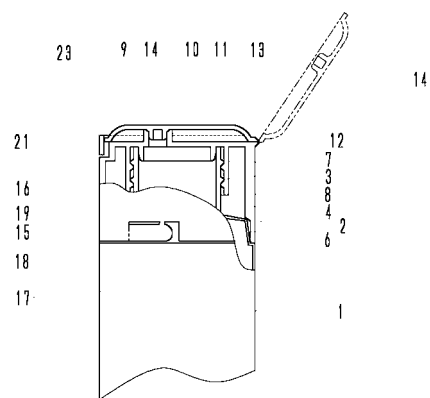
- 1 0 注出ノズル
- 1 1 上壁
- 1 2 上壁端
- 1 3 ヒンジ
- 1 4 ノズルカバー
- 1 5 外筒下端
- 1 6 連結片
- 1 7 切欠
- 1 8 摘み部
- 1 9 接続部
- 2 0 ラチェット
- 2 1 段部
- 2 2 a , b 連結部
- 2 3 封緘カバー

10

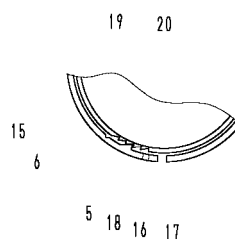
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平02-097249(JP,U)
特開平10-120009(JP,A)
特開2001-315824(JP,A)
特開2000-128219(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 39/00~55/16